自己の生き方を考える児童を育てる道徳指導の工夫
―道徳の時間と日常生活を結び付ける書く活動の充実を通して―

道徳班　天田　雅士（小学校教諭）

児童の実態
- ■あるべき姿は分かっているが、行動に結び付かない傾向がある。
- ■道徳の時間に学習したことで、自分の考えがどのように変わったのか分からない。
- ■道徳の時間に学習したことが、日常生活の中でどの程度意識できているのか、実践に結び付いているのか、分からない。

教師の願い
- ■指導の効果や、児童の変容を見取りたい。
- ■1時間の授業で終わらせず、日常生活に結び付けたい。

道徳の時間

実践2　4－(3)役割・責任　　資料名「小川笙船」（文部科学省「私たちの道徳」 高学年）

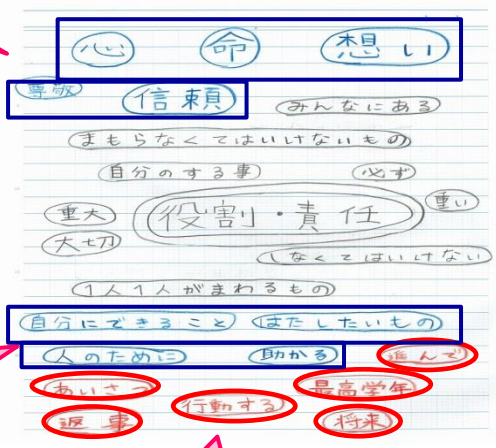
【導入】

役割・責任とは何ですか。心のマップにまとめます。

①中心に内容項目（役割・責任）を書く。
②鉛筆で、内容項目に対する思いや考えを書く。

≪心のマップ≫

※ノート1ページにまとめる。
※マインドマップのように、放射状に書くが、線で結ばない。



≪心のメーター≫

【展開】
- ・資料を読んで話し合った後、自分自身を振り返る際に活用する。
- ・内容項目に対し、赤（果たせている）、青（果たせていない）で色を塗る。
- ・色を塗った理由を考える。

※自己理解を深める。

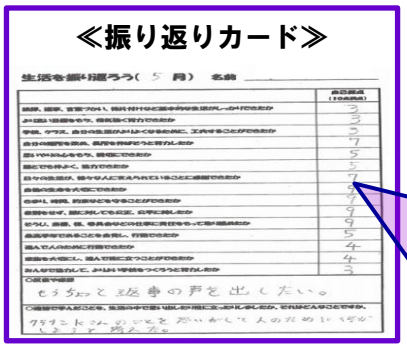
【終末】　※ □ で囲まれた文字

役割・責任とは何ですか。心のマップにまとめます。

③導入と同じ発問に対して、青鉛筆で書き足す。
※授業で、価値に対する考えが深まったことが一目で分かる。

日常生活

≪振り返りカード≫



【学活】
- ・毎月、月末に行う。
- ・内容項目と対応して、各項目を作成。
- ・10点満点で自己評価。
- ・記述欄は、「反省・感想」「道徳の時間で学習したことを、思い出したり役立てたりしましたか」の2点。

※月ごとの変容を追い、自分を見つめ直す。

【学活】　※ ◯ で囲まれた文字

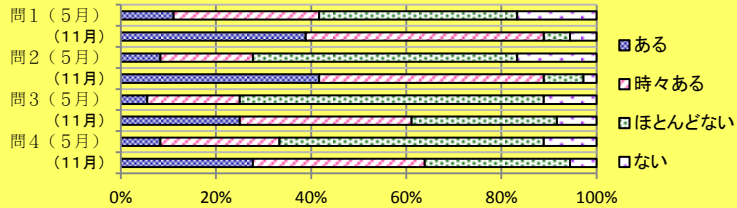
④赤鉛筆で、書き足す。
- ・道徳の時間の後に「日常生活で考えたこと、思ったこと、行動しようとしたこと、行動したこと」について書く。
- ・週に一回、振り返りをする。
- ・以前学習したどのページに戻ってもよい。

※道徳の時間と日常生活が結び付く。
⑤友達と相互評価する。
※友達に認められることで、自己肯定感が高まり、道徳的心情や実践意欲が高まる。

自己の生き方を考える児童

成果（○）と課題（●）

○右のグラフから、3つの手立てにより、児童は価値の深まりを自覚し、日常生活と道徳の時間を結び付けて、自己の生き方を考えることができるようになった。
○教師も、指導の効果や児童の変容を広い視点で見取ることができた。
●まだ、道徳の時間と日常生活の結び付きが弱い児童もいる。各教科や特活、行事など様々な教育活動と関連付けて道徳の時間を実施していくと共に、心に深く響くような授業展開の更なる工夫などが課題となる。



問1「あなたは自分の生き方について考えることがありますか」
問2「あなたは、道徳の授業で、生き方について考えることや、参考にしたいなと思うことがありますか。
問3「あなたは、ふだんの生活の中で、道徳の授業で学んだことについて思い出したり、考えたりすることがありますか。」
問4「あなたは、ふだんの生活の中で、道徳の授業で学んだことを生かし、実際に何か行動できたことや、行動しようと思ったことがありますか。」

※グラフの設問